

今日のトピック

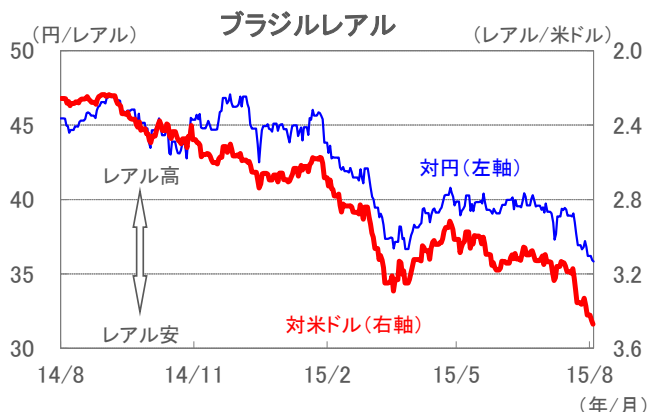
ブラジルレアルの最近の動向と今後の見通し

ポイント1 年初来対円で約20%下落

対円で2008年以來のレアル安水準

■ブラジルレアルは7月中旬以降、財政不安や政治的不透明感などを受け、下落傾向が強まっています。

■昨年末からの下落幅は、対円で▲20.4%(8月4日時点)となり、2008年12月以來のレアル安水準となっています。対米ドルでは、同▲30.6%の下落となり、2003年3月以來、約12年半ぶりのレアル安水準となっています。



(注) データは2014年8月1日～2015年8月4日。

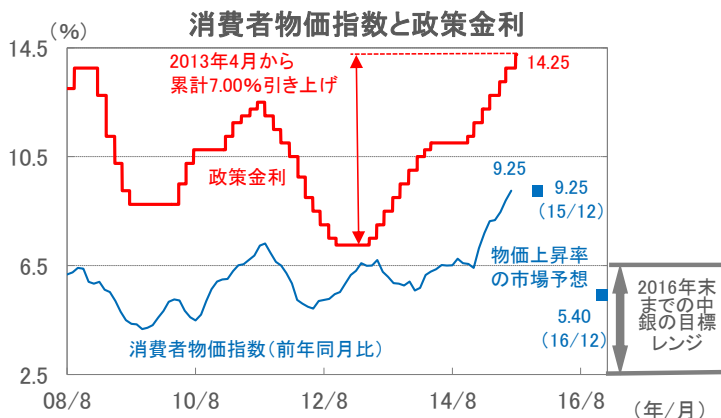
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 財政不安から下落が加速

投資適格級は当面維持の見込み

■政府は景気の下振れによる税収不足などから、7月22日に財政収支の目標を引き下げました。これを受けて大手格付け会社S&Pは28日、国債格付け(BBB-)の見通しを「弱含み」に引き下げ、レアルの下落が加速する要因になりました。

■現政権は、市場から評価の高いレビ財務相を中心に財政再建への取り組みを続けています。ムーディーズ社がBaa2(BBBに相当、投資適格の下から2番目)としていることもあり、ブラジル国債は投資適格級(Baa3、BBB-以上)を当面維持できる見込みです。そのため、格下げ懸念によるレアル安圧力は短期的と思われる。



(注) 政策金利は、2008年8月1日～2015年8月4日。消費者物価指数は2008年8月～2015年7月(2015年7月は月前半)。消費者物価指数の市場予想は、ブラジル中央銀行が8月3日に発表した調査結果。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 物価の落ち着きが、レアル反転のカギ

■ルセフ政権は、景気低迷下でも財政緊縮策を進めざるを得ず、支持率が直近の世論調査では1桁に落ち込みました。汚職疑惑がルセフ大統領の前任のルーラ氏周辺にも及んだことが長年の労働者党政権に対する不満につながるなど、政治的不透明感は当面レアルを下押ししそうです。

■ブラジル中央銀行は、昨年10月から今年7月ま

で、政策金利を7会合連続で引き上げ、14.25%としています。これまでの利上げの効果などにより財など一部の物価が落ち着いているほか、市場の2016年末の予想が低下しつつあります。

■物価が全体として落ち着く場合、消費や投資の回復にもつながり、レアルは持ち直しに向かうと期待されます。

ここも チェック!

2015年07月30日 ブラジル中銀が追加利上げ、利上げ打ち止めを示唆
2015年07月13日 「ブラジルの物価」が安定の兆し(ブラジル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。